

青森県立保健大学大学院 CNSコース(がん看護・母性看護)紹介 (専門看護師)

がん看護専門看護師コース (38単位)

取得可能な学位:修士(看護学)

◎がん看護専門看護師教育課程

がん看護に貢献できる人材の育成を目指します。

高度化・専門分化が進むがん医療の現場において、困難で複雑な健康問題を抱えた人々を病気と生活の両側面から捉え、ケアとキュアを統合した高度な看護実践能力を有する専門看護師の養成が急務となっています。

本コースは、住み慣れた地域でがん患者と家族が望む生活の実現へ向けて、総合的な判断と組織的な問題解決力を培い、高度の看護実践を行うための看護を探求するコースです。特に、がん看護分野の中でも「がん薬物療法看護」「緩和ケア」をサブスペシャリストとする専門看護師を養成しています。

本コースでは、実習単位が10単位あり、5種類の実習を行います。複雑な問題を持つ患者や家族に対する高度で専門性の高い看護の提供、チーム

医療の一員としての総合的な判断と組織的な問題解決の実践、さらに教育や組織の課題への取り組みの実際を学び、がん看護専門看護師としての役割開発を探求します。また、課題研究では、専門看護師として現場での看護を改善し、根拠に基づいてケアを実践するために実践上の課題を解決するための研究能力を養います。

がんになっても住み慣れた地域で最期まで過ごせるように、がん患者・家族に対して、「いつでも、どこでも、だれにでも」質の高い地域包括ケアシステムの一部としてがん看護を提供していくために、患者・家族、様々な職種、施設間をつなぐ調整力を備えた地域に根差したがん看護専門看護師の育成を目指しています。

母性看護専門看護師コース (26単位)

取得可能な学位:修士(看護学)

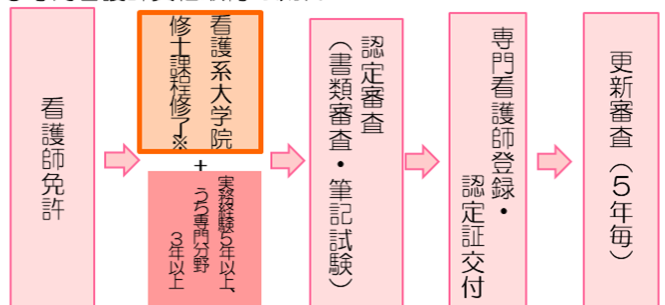
◎母性看護専門看護師教育課程

周産期の母子および家族に対する質の高いケアを提供できる人材の育成を目指します。

周産期における母性看護専門看護師の役割は、一貫した母子および家族のプライマリーケアを計画・実践・評価し、緊急事態に対応するとともに、研究や業務管理・政策参画を通して母子援助のケアを発展させるためにリーダー的役割を担うことです。さらに、周産期の看護職者のケアを向上させるために、教育的役割やコンサルテーション機能を果たすと同時に、必要なケアが円滑に提供されるように他職種との調整役割を担います。

専門看護師は卓越した看護ケアの実践者であることから、本学の母性CNSコース(26単位)では、理論や文献に基づいて、対象となる女性・母子への理解を深めるための科目(母性看護学特論等)や高度な看護実践能力を修得するための科目(周産母子援助実習等)を履修します。現在、専門看護師の資格を取得した本学の修了生が県内外で活躍しています。

○専門看護師資格取得の流れ

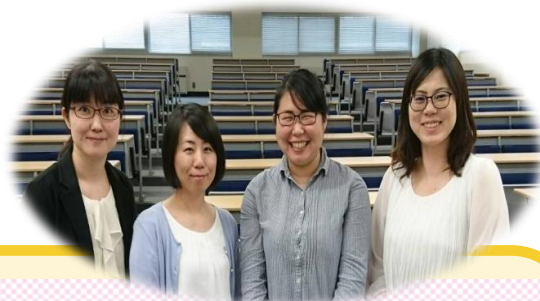


※ 日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得すること(26単位または38単位)

■ 募集人員・入試に関する詳細については、「学生募集要項」をご覧ください。



青森県立保健大学大学院 専門看護師(CNS)コース ～在学生からメッセージ～



《がん看護専門看護師コース》

私たち3人は、平成29年度がん看護CNSコースの一期生として入学しました。現在は職場の支援や協力があり、休職し大学院に通っています。進学理由はそれぞれ違いますが、がん患者・家族に対する看護をより良くし、がん看護の質を上げていきたい気持ちは共通しています。

がん看護CNSは、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究という6つの役割を駆使し、がん患者の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛への理解を示しながら、複雑に絡み合った看護問題を明確化し、がん患者やその家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った看護実践を行います。また、ケアに悩む看護師に対しても看護師自身の問題解決能力を高め、自律心が育つような働きかけを行います。これらががん看護CNSとしての役割を担うためには、さまざまな人達と関わりながら、自らの力を発揮し、相手に信頼される存在として認識されることが必要です。知識や技術だけでなく、高い人間性も

求められます。がん看護CNSコースでは、専門的な知識や技術だけでなく、人間性を磨き自身を成長させることも重視しています。実習・演習においては、県内外の多施設で行っており、最先端のがん医療やがん看護に触れることで、幅広い視野でがん看護を捉えることができます。また、臨床現場で活躍するがん看護CNSから直接指導を受けることで、がん看護CNSとしての思考過程や人間関係のスキルを間近で学ぶことができます。これらの学びの過程を通して、現在、私たちは、人としても成長できるよう自己の課題を見つけながら、その課題と向き合う日々を送っています。また、先生方からのご指導や同じ大学院に通う仲間たちと共に看護について語り合うことで毎日新しい発見や気づきを得て、貴重で充実した大学院生活を送っています。卒業後は、それぞれの職場に戻り、大学院での学びを活かしながら、がん患者・家族に対し少しでも質の高い看護実践が提供できるよう活動していきたいと考えています。



学生同士のディスカッションで、臨床での看護実践に対する学びを深めてみませんか？！

《母性看護専門看護師コース》

私は総合周産期母子医療センターで助産師として勤務していました。臨床での周産期における母子援助を通して、ハイリスク妊産婦、ハイリスク新生児に対して、治療的ケアを必要とする周産期における女性への看護とは何か、対象を理解する看護とは何かについてもっと知りたいと思っていました。現在、職場の支援と理解のおかげで、周産母子CNSコースで学ぶことができます。大学院では、医療・看護におけるエビデンスに基づいた実践方法、対象を多角的に捉え一貫した母子および家族のプライマリーケアの実践など、高度実践看護について学んでいます。どのように自分の看護の強みや弱み、課題

について考えるか、母子および家族の援助とケアシステムの充実や発展についてなど、職場へ戻ってからのCNS実践について考えることができる学習環境が整っており、指導教員を始め、大学院の先生方、CNS領域以外の院生同士のディスカッションにより、学びをさらに深めることができます。また、CNSとして身につけなければならない総合的判断力、問題解決能力はもちろん、“看護の力”について深く考えることができる指導をいただいています。職場に戻ってからは、大学院での学びとご指導を活かし母子および家族へのケアの質の向上につながる取り組みをしていきたいと思っています。